

2017年1月21日

第132回山口西田読書会（2017年1月21日）  
第131回（2017年1月14日）のprotocols  
参加 11人。

【テキスト】西田幾多郎『善の研究』第4編「宗教」第3章「神」の第1段落より第4段落まで。

1) 第1段落

神と人との関係を述べた第2章に続いて「神」の章では神と宇宙との関係を述べている。神は宇宙の根本のことを指し、実在の根柢であるから、それは自己（個人的意識）においても同様であると述べている。神と宇宙は「本体と現象」の関係であり、天体の運行も人の心もおなじ「神の表現 manifestation」であるとし、すべてを神（根本、根柢）の側から述べている。

2) 第2段落

神が宇宙の内面的統一力であり、その統一力が自然にも精神にも働いているとの第2段落の説明は、自然の根柢がそのまま自己（個人的意識）の根柢であるとした前章（第2章）の第3段落に似ている。自然と精神は没交渉ではなく、関係は密接であり、どちらにも「唯一の統一力」が働いていると述べている。※この「精神」を自己、個人的意識と読みかえても差し支えないか。

3) 第3段落

ここは唯物論に対する批判に始終する。「個人の性を除去したる純物質」という概念は「最も具体的事実に遠ざかりたる抽象的概念である」とし、「最も具体的なる事実は最も個人的」と述べている。

4) 第4段落

精神と自然の2実在があるのではなく、精神も物体も「ただ一箇の現実」であることを前段で述べ、後段ではその「実在の体系の衝突」「発展上」より主客の対立が生じると述べている。自ら言い換えて「知覚の連続においては主客の別はない、ただこの対立は反省に由って起こってくる」とあり、その場合の統一側を精神、対立する側を自然としている。そして「元来」（『善の研究』でこの語が出たら「純粹経験においては」と読み替えることができる）どちらも同一の統一の下にある。

5) 哲学的問い

対立が反省から起こるなら、反省はどこから生じるのか。

※不幸（対立）が予定されている幸福（統一）は幸福なのか。内面的統一は完全ではないのではないか。西田における反省（reflection）とはどのようなものか。

（報告、岡部）